

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



南天門自然植物園のモンゴリナラ(蒙櫟)の成長ぶりに目を細める李向東さん

Contents

- 東北の海岸林再生活動に参加 P 2
- 年末の寄付のおねがい P 3
- 2015年秋の大同に4グループが集う P 4
- 珪石採掘跡地の緑化に挑戦 P 6

2015.11

166

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



報告 東北の海岸林再生活動に参加 阿武隈川河口付近でクロマツを植える

9月12日と13日、ゆりりん愛護会と宮城県緑化推進委員会が開催した「海岸林再生一復興植樹祭」に関西をはじめ各地の会員18名が参加しました。



コンテナ苗の植え方を説明する大橋信彦会長

簡単に植えられるコンテナ苗

山本 隆明 (GEN 会員)

初日の植樹では、その簡便さに感激した。育苗プランターで育てられたマツ苗は、根が下に長く真っ直ぐに伸びていて、根全体が先の少し細くなった円柱状。穴掘りの道具はシャベルではなく、先が円錐状に尖った金属製の特注品だ。上に取っ手が、下のほうに踏み込み用の横棒がついている。これを踏み込んで穴をあけ、ぐりぐりと内側から広げれば、それでOK。これに苗を差し込むと、根の周りの土がこぼれ落ちることもなく、穴にすぽっと取ま

た。前日の雨で土壌も軟らかく、314本のクロマツ苗は1時間もかからずに全部植えることができた。愛護会の皆さんの海岸林再生への意気込みが、いろいろなアイデアを生み出しているのだろう。

2日目は、愛護会の大橋さんの案内でゆりあげ地区の被災地や仮設住宅を見学した。校長先生らの機転で、児童ばかりでなく地区住民も助かったという小学校では、思わず感動。そして、大橋さんから、「裸足で松林を駆け抜け

白浜に走っていったんだ」という、子どものころの話の聞いていると、故郷の浜辺を再度取り戻したいという、愛護会のみなさんの熱い思いが伝わってくる。仮設住宅の方々も、敷地の一角に海岸の砂を運び込み、海浜植物を栽培している。そして、浜辺の波の音、松林を吹き抜ける風の音、潮の匂いなど、あのゆりあげの浜の思い出を心の糧に、日々頑張っているとのこと。順調な復興と1日も早い「故郷」の浜への復帰を心から祈った。

松林にかける強い思いを感じる

大澤 さなえ (GEN 会員)

東日本震災以来、何かにつけて被災地のことが気に掛かっていたところ、GENの活動として、名取市のゆりりん愛護会主催の海岸林再生のための植樹祭並びに植樹への参加の呼びかけがあった。

久しぶりの活動にこれ幸いと即刻申し込んだ。何と参加申し込み第一号と知らされ、いつもながら「チョット旅行ついでに…」という軽い思いが後ろめたく恥ずかしかった。

名取に着いてまずは仙台在住会員

佐々木さん推薦のホカホカ焼ききたて蒲鉾を目指して「ささ圭」さんに立ち寄り、ばくつき念願を果たした。ほわっと香りが口の中に広がって美味しかったこと！

仙台空港で参加の皆さまと落ち合い、懐かしい方々、初めての方、また若者達も交じり、この先の楽しい活動が想像でき、嬉しかった。被災地は未だ建物の形無く復興の力強い躍動感を感じられないが、少しずつ兆し



天気予報を裏切る好天に恵まれ、いい汗をかきました。

が見え始めていた。特に海岸線の長く伸びた護岸堤には安心感が、そしてその内側にはすでに数か所に分かれての植林エリアができ、何千本もの松や広葉樹の苗木が植林されているのを目にして感動した。いまだ不自由な生活にもかかわらず、地元の方々にとって以前の松林の景色がどれほど生活に欠かせない心の拠り所となっていたのかが身に沁みてわかったような気がした。緑豊かな風景は誰にもかけがえのないものだ。

阿武隈川の河川敷の植林エリアに300本余りの松の苗木を参加者全員で力を合わせて植えた。県の担当者、ゆりりん愛護会の皆様の十分な準備があったこと、そのご苦労に頭が下がる思いだ。苗木は初めて目にしたマルチキャビティコンテナで育てられたもので、なかなか優れたものようだった。

翌日植松仮設住宅を訪問し海岸植物の再生を試みている花壇を見学。ハマボウフウやハマギク、コウボウムギ等以前親しんだであろう植物が丁寧に管理され育てられていた。自治会長さんのお話を伺いながら、多くのご苦労を抱えられての現在だろうと察しられ、1日も早く新たな落ち着いた生活が始められるように祈りながらお別れした。

明治時代の建物旧伊達邸の「鐘景閣」で夕食後、秋保温泉で汗を流し、共に行動したお仲間と語りつつ、充実した1日を終えた。

この2日間、ゆりりん愛護会会長大橋さんはじめ仙台の会員佐々木さん、藤嶋さんの細やかな準備とお気遣いの上に過ごせたことに心から感謝申し上げます。

年末の寄付のおねがい 困難な時期を乗り切るために

毎年お願いしている年末の寄付のお願いです。7月の寄付のお願いにたくさんの方のご協力をいただき、たいへんありがたいのですが、実はGENの財政はいまとても厳しい状況にあります。

寄付金収入が今年度予算の21%しかなく、会員の減少もみられます。

GENの大同における緑化協力は、その成果を無に帰さず、いかに将来に残していくかを模索する大切なステージに入っています。これまでよりも資金は少なくすみませんが、助成金などを得ることはむずかしい種類の出費です。

また、GEN事務所の活動を支える運営カンパや、今年度に動きはじめた東北の海岸林再生プロジェクトへのカンパ、おまかせカンパも歓迎いたします。

みなさまのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

発送作業の都合上、郵便振替の用紙を一律に同封します。最近にご協力をいただいた方には、重ねてのお願いではありません。ご了承いただきますようお願いいたします。

【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは所轄庁(大阪市)に認定された認定NPO法人です。

GENへの寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業(法人)からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

寄付金となるのは、緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。



これからどうする? 運営懇談会にご参加を

大阪会場 11月28日(土)、東京会場 12月19日(土)

大同での緑化協力事業は来年で事業開始から25周年を迎えます。関東ランチが中心になって進めてきた西伊豆の活動は国際ボランティア学生会(IVUSA)との共働が始まるなど、大きく広がっています。9月からは名取市のゆりりん愛護会と協力して東北の海岸林再生活動に取り組みを始めました。会員の減少や高齢化などへの対応も容易ではありません。この機会に会員の皆さんの率直な意見をお願いします。

【大阪会場】

○日時: 2015年11月28日(土) 13時30分~16時30分

○会場: 大阪府環境情報プラザ研修室(大阪市東成区中道1丁目3-62 地下鉄「森ノ宮」駅5番出口またはJR環状

また、大阪市民のかたは市民税控除を受けることができます。くわしくはGENまでお問い合わせください。

助成が決まりました

2015年度の日中緑化交流基金による「北京の水源・桑干河流域における緑化事業」への助成が560万円以内でした。

線「森ノ宮」駅北口から300m徒歩5分)
○申込み: GEN事務局まで
※終了後懇親会をおこないます。会費3,500円程度。参加希望の方は11月25日までにGEN事務所までお申し込みください。

【東京会場】

○日時: 12月19日(土) 15時~18時ごろ(13時30分~14時50分まで関東ランチ月例会で高見副代表が大同の最新情報を話します)

○会場: 立教大学池袋キャンパス太刀川記念館1階第1・2会議室(各線池袋駅西口から7分)

※終了後忘年会をおこないます。参加希望の方は12月7日(月)までに上田信(ueda@rikkyo.ac.jp)まで。

いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう!

緑の地球ネットワーク会費(年額)
一般会員 12,000円
家族会員(同居の家族2人目から) 6,000円

学生会員 3,000円
ジュニア会員(中学生以下) 1,000円

団体会員 12,000円
賛助会員 100,000円

※会費には会報購読料が含まれていま

す。

■会報を購読してください!

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料無料)

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。



継続は力！ 育ってきた緑に感激 今秋も4グループが大同で活動

8月下旬から9月上旬にかけ、4つのグループが大同を訪れ、植樹と交流の活動に取り組みました。前号の緑の地球ネットワークのツアーにつづき、イオンリテールワーカーズユニオン（8月25日～27日、26名）、サントリー労働組合（8月24日～26日、11名）、大阪市RR厚生会（9月4日～8日、8名）の参加者の声をお送りします。

緑の広がりにも時の経過をみる

神部 美香（サントリー労働組合）

昨年に引き続き、サントリー労働組合も2015年8月24日から26日、黄土高原ワーキングセミナーに参加しました。3日間という短い期間ではありましたが、現地でもしかすることができない、



作業のあとはいつも元気にカンパ〜イ！

多くの気づき・学びを得られる貴重な体験ができました。

初日は、まず「緑の地球環境センター」にて施設の見学と植樹活動をおこないました。その後、カササギの森の見学に行きました。「緑の地球環境センター」は、事前に映像で見ていた過去の風景とは全く違い、植樹された木々が大きく育っていて、夏場ということで緑も多く、過去の取り組みがこのような結果として現れていることに驚きと喜びを感じました。また、「カササギの森」の見学では、センターで植樹体験をしていたため、活動の大変さを体感していたからこそ、広大な土地に広がる緑に圧倒され、このような取り組みは、一時的なものでは結果は出ずに、やはり継続して取り組むことの大切さを目の当たりにすることが出来ました。

翌日には、天鎮県に移動して、イオンリテールワーカーズユニオン様とGENのツアーの方々と合流して、バス3台でのにぎやかな団になり、総勢60

名規模で一斉に植樹活動をおこないました。一緒に植樹をしながら、GEN

さんのツアー参加者から、「過去にも参加して、10年ぶりに現地の様子を確かめに来たんです」ということをうかがいました。この気持ちは現地で植樹活動に携わり、GENさんをはじめ、現地の協力者の日々の努力に触れるからこそ、生まれてくる感情だと思いました。たった1日の植樹活動ですが、「1本1本、無事に大きくなりますように」「しっかりと成長してくれますように」と願いをこめて活動に参加できたこと

手を振ってくれた人の笑顔が印象的

宮島 琴子（イオンリテールワーカーズユニオン）

「木を植える」ということは、今まで私にとって身近なことではありませんでしたが、植樹は自分とは遠ざけて考えていたところがありました。

今回初めて木を植えてみて、その木が大きく育つところを想像しました。同時に、その木が切られるところを想



緑の地球環境センターでマツ苗を植える（右が宮島さん）

像したくないと思いました。そこで前中先生に「私が植えた木が切られると思うと悲しいので、これからは資源を大切に使おうと思いました」と言ったところ、先生から「資源を大切にする

で、この木々たちが、数年後、十年後にどのような姿になっているのか、自分たちのこの瞬間は現地のためになったのだろうか、自分の目で確かめたいのです。

今回は、非常に短い期間での黄土高原ワーキングセミナーでしたが、改めて、多くの気づきや自分の視野を広げる非常に良い経験ができたことに、心から感謝したいと思います。一緒にツアーに参加できたみなさん、また現地で親切に迎え入れてくれたみなさん、今回も共催させていただけたイオンリテールワーカーズユニオンのみなさんと感想や思いを語りながらの植樹活動や、懇親会で交流することができた貴重な体験でした。

またいつか、大同の地で緑が広がった現地を見ながら、この経験を振り返ることができたらと思いますし、今回植樹した苗木が無事に根付くことを心から願っております。

のは大事なことです。でも、木は切られるものですよ。みなが使うために

植えているみたいなどころもあるので「すから」と意外な言葉が返ってきました。この先生の言葉は、私の植樹に対する考えを変えてくれました。

実際にプログラムに参加して感じたのは、GENさんの植樹の一番の目的は「地球環境を保護すること」ではなく、「現地の人々と自然の共生をサポートすること」なのではないかということです。GENさんが活動する森や畑の中から現地の人々が笑顔で手を振ってくれたのが印象的でした。植樹活動は現地の人々を幸せにしている活動なのだ、と感じました。

今回の活動を通じて、当たり前のことですが「自分のボランティア活動は誰を幸せにすることができるのか」という新たな視点を獲得することができたと思います。ボランティア活動をするにあたり、相手を笑顔にすることを目標に取り組んでいきたいと思っています。

今回の活動を通じて、当たり前のことですが「自分のボランティア活動は誰を幸せにすることができるのか」という新たな

視点を獲得することができたと思います。ボランティア活動をするにあたり、相手を笑顔にすることを目標に取り組んでいきたいと思っています。

広大な面積の緑に圧倒される思い

平山 勝（大阪市RR厚生会）

大阪市RR厚生会は一般社団法人への移行に伴い公益事業として2011年から黄土高原緑化事業に参加してきました。今年度は9月4日～8日まで4泊5日で8名が参加、取り組んでから5年が経過しましたので、苗木の成長と



緑の地球環境センターの見本園で記念植樹

緑化がどれだけ進んでいるのか、見るのを楽しみにしながらの参加でした。大同までは370kmの道のりの高速道路が整備されて、思いのほか早く着いた感じでした（心地よい居眠りをしていたせいかもしれません）。

大同市は年間雨量が400mmと春と秋に少量の雨しか降らず、それが2、3

日前まで晴天続きであったが雨になり、少し涼しくなったとのことで、現地の人達にとっての雨は恵みの貴重な水とのことでした。

翌日は緑の地球ネットワークの緑化活動基地である「緑の地球環境センター」施設内のマツやエンジュ、アンズなどの多くの樹木の苗木や草花の生育状況の説明を受けて、参加者全員で記念碑の前で写真、昼食はセンター内の食堂で御馳走になり、自家栽培で取れたジャガイモやトウモロコシの味が「もっちりとした」日本では味わえない美味しさであった。

午後から訪れた、緑化プロジェクトで植林した「采涼山地球環境林」実験林場「カササギの森」で、成長した松やナラなどが7～8mに伸びたのを見て、5年前に訪れた仲間は、立派に育ったと感動していました。

標高1,500mに近い山地の荒涼とした大地で、年間雨量が少なく、寒暖差や強風で想像を絶する環境の中で育てる苦労は並大抵のことではないと思い、改めて皆さんのこれまでの努力に感謝しました。

有意義なツアーで、お世話になったみなさんに感謝をいたします。

大地に植える 心に植える イオン中国人社員の大同の印象

イオンリテールワーカーズユニオンのツアーにイオン中国の社員のみなさんが5名参加しました。印象深かったようで、その感想が社内報に投稿されたそう。

あっというまに500本以上を

李 鑫

日本のイオンの方、GENのボランティアの方、サントリー労組の方が、20代の若い方から還暦を迎えられた年配の方まで、はるばる日本から植樹に来てくださいました。交通が不便なので、バスで大同市に行きました。4時間以上かけて天鎮県に着き、疲れているにもかかわらず、みなさんすぐに自らシャベルを持って、2人でペアを組んで植樹を始めました。あっという間に500本以上の木を植えました。植え

た木は、今はまだ苗ですが、10年、20年後には緑の森林になると信じます。

植樹活動の後、GEN事務局長である高見邦雄先生が私たちに今までの植樹活動の中で得た経験と植樹に関する知識をたくさん話してくださいました。高見先生のお話を聞いて、「植えた木を定着させるために、木の南側に土堤を作ると水を地下に浸透しやすい」等々が分かってきました。高見



イオンとGENのメンバーが采涼山プロジェクトのマツをバックに。

予告

2016春 黄土高原 スタディツアー

中国山西省大同市における緑化協力事業は1992年に始まりました。その中心になるのは春季の植樹ですので、2016年は25周年の記念の年です。

地元の人たちと協力して私たちはこれまで1,882万本、5,912haの植樹をし、初期に植えたものは立派な林に育ちつつあります。

独自のツアーのほか企業のCSR活動や労働組合の協力をえて、これまで現地を訪れた人は3,660人に達します。春のツアーにぜひご参加ください。

- 日程：4月9日(土)～15日(金)6泊7日
- 訪問地：中国山西省大同市(北京経由)
- 費用：一般197,000円

学生割引5万円(関西空港発着、中国国際航空利用)※燃油特別付加運賃等含む。GEN年会費が別途必要

- 定員：30名程度
- 最少催行人員：12名
- 詳細は1月号でご案内します。



参加者募集 GEN自然と親しむ会 淀川野鳥観察

木の葉の少ない冬の時期は水鳥も多く、野鳥観察に適しています。また鳥を知ることは自然環境を理解するために重要です。観察会にご参加ください。

- 日時：2016年2月6日(土)10:00～15:00頃(雨天中止)
- 場所：淀川沿い
- 案内：高田直俊さん(元大阪自然環境保全協会会長)
- 集合：京阪電鉄本線「樟葉」駅
- 解散：京阪電鉄本線「枚方市」駅
- 参加費：700円(保険料を含む)
- 定員：約20名
- 持ち物：歩きやすい服装と靴、弁当、飲み物、敷物、あれば双眼鏡、野鳥図鑑
- ※参加を希望される方は、名前、住所、電話番号、年齢を、2月3日までにGEN事務所へご連絡をお願いいたします。

報告 珪石採掘跡の緑化に挑戦 関東ブランチが宇久須で取り組む

恒例の収穫合宿、今年はGEN関東ブランチ宇久須宿舎第1番頭の藤原國雄さんが、地域の区長となり、11月の秋祭礼の世話役となったこともあり、半月早めの10月16日(金)から18日(日)の期間で実施しました。参加者は少なかったものの、磯部さんの詩からもその感動が伝わると思います。

ウグス、藤原さんの迎えから始まるウグス収穫!

恋人岬での夕日がまぶしいね!
兄の健康のため小生は一箱送りしました

皆さんにはいろいろお世話になりました!

これから畑での付き合いを!
今回の合宿では、宇久須の山のなか、珪石採掘跡地の緑化に路をつけることが目玉の企画となりました。強酸性土壌にシカの食害と、植えたマツなどの苗は育たなかったのですが、GENの専門家のアドバイスを得ながら、有毒な

アセビとシキミを植えてみました。9月中旬に上田ゼミの学生が植えた

苗は、その周囲にシカが散在するなか、しっかりと根付いたのです。鉾山の跡地の緑化が難しいことは、足尾銅山跡地などでも示されています。宇久須珪石採掘跡地で成功すれば、これは大した成果です。

関東ブランチ圃場では、5月に植えたサトイモ・サツマイモの収穫。ころんとエビイモが、形のいいサツマイモが続々と掘り出されました。宿舎第2番頭的美谷島さんは、昨年はイモをご近所で「おすそわけ」したところ、釣で豊漁だったという鯛のお返しがあった



関東ブランチ圃場でサトイモの収穫作業

たそうです。今年も「海老(イモ)で鯛」をもくろんで、収穫を自宅に。また、メンバー全員からGEN事務局に、イモをおすそわけしました。

(磯部美樹+上田信)

報告 万博公園できのこ観察会

岡田 憲政 (GEN 会員)
10月17日(土)大阪の万博記念公園で、栗栖敏浩さんを講師にきのこ観察会を開催し、19人の参加がありました。

しばらく雨の降らない乾燥した状態での観察会で、はたしてキノコが見ら

れるだろうかとの不安を抱きながらの参加となりました。しかし、結果的には私がメモをとった種の数
45種ほどありましたから、まずまずではないでしょうか? :

黄土高原史話<75>

孝文帝の顔かたち

谷口 義介 (GEN 会員)

人生茫茫72年。長いこと、滋賀県で発掘調査の現場に立った。40を過ぎて、熊本の大学に外国史担当で拾われた。50の手前で大阪に移り、機会があって夏休み北京で一と月暮したとき、ある人に職を問われた。なにせ浅学非才の身、「中国史」の教授とは言い出せず、苦肉の策で考古学と。相手はアッサリ「墓を掘る人」と断じた次第。たしかに多くの古墳を掘ってはきたが。

かくいうわけで今回は、お墓の話から入るとして。

孝心あつき孝文帝、平城(大同)の北25キロの方山に、祖母(実母?)馮太后の陵墓を営み、その側に自分の寿陵(生前に造っておく墓)も築き始める。ところが造営途中の太和十七年(493)八月のこと、太后の陵に別れを告げ、大軍を率いて平城を発ち、到着した洛陽に都を定む。

かくして北魏の都は洛陽に遷り、ややあって孝文帝は二十三年(499)四月に没す。時に享年33。翌五月、洛陽の北西15キロ、北邙山の長陵に埋葬される。

北邙山は、黄河の南岸に沿うならだかな黄土丘陵。「土厚く水深き」ため、

墓地には最適。つまり地下水位が低く、棺槨が腐りにくいというわけだ。古来、「葬は北邙に在り」という諺も存す。かの曹操の子、曹植の詩に、「歩みて北邙の阪を登り、遙かに洛陽の山を望む」とあるごとく、洛陽からも遠くない。

孝文帝の長陵は、高さ35メートル、径45メートルの墳丘で、文昭皇后もここに合葬。つとに盗掘を受けており、記すべきことがあまりない。そこで、帝のために造られた龍門石窟の賓陽中洞に話題を移そう。

北魏第7代宣武帝(499~515年在位)は、景明元年(500)、亡き父母、孝文帝・文昭皇后の供養のため、洛陽南郊の伊闕山に、雲崗モデルの石窟を造らす。ところがこれが難工事、5年たってもはかどらず、位置をずらして、ようやく賓陽三洞が完成する。『魏書』釈老志によれば、23年の歳月と80万2,366人の労働力を投じたが、このとき落慶したのは三洞のうち中洞一窟だけ。

いわゆる賓陽中洞は、北魏時代の龍門石窟を代表する大窟で、奥行き10メートル、幅11メートルの平面馬蹄形。高さ10メートルの天井には、真ん



龍門石窟・賓陽中洞の釈迦像

中に大きな蓮華紋、まわりを飛天がとり囲む。

向って正面中央に釈迦の像(写真)、左右に2菩薩・2弟子を配した五尊形式。典型的な北魏仏の姿をとどめる。

注目すべきは、裳掛座(衣を垂らした台座)に結跏趺坐する釈迦像で、高さ8.4メートル。やや面長で、長い耳、弧形の眉。目はクッキリと、鼻翼広がり、唇かすかに笑みを浮かべる。知的な顔立ちといえるだろう。

皇帝の姿を模して仏像を彫るのが北魏の伝統だとすれば、この釈迦像こそ在りし日の孝文帝の姿にほかならぬ。雲崗第19窟本尊のモデル初代道武帝、第20窟中尊仏の第3代太武帝とは、大違い。



栗栖さんを囲んで熱心な質問の輪ができた。

キノコに関しては食べることも知らなかったのですが、観察会に刺激されてキノコの役割を調べてみました。植物が生産し、動物がたべるとい食物連鎖のサイクルは知っていたのですが、実際には、そこにキノコ(菌類)

が大きく関わっているのです。まず、地球上における生物:植物や動物の死骸を最終的に分解するのは菌類だけです。動物や植物の死骸を菌が分解し、栄養豊富な土にすることで植物がまた芽を出すことができるといえます。そのため、キノコを含む菌類が死骸を分解することをしなければ、地球はあっという間に死骸だらけの世界になってしまうことでしょう。役目を終えた生物をキノコが分解することで自然界の生命のサイクルは回っています。

名前のイメージからいけば、キノコ

は木から一方的に栄養を貰っているような印象を受けますが、実際にはお互いに栄養のやり取りをし、双方が栄えるように協力しているのです。事実、地中の菌糸が豊かな土壌と、そうでない土壌では樹木の成長速度が違うということが実証されています。

このようにキノコは死骸を掃除するだけでなく、植物の成長を助けたり動物の食料になったりと、人が生活していくうえでも大変優秀なパートナーになっていると言えます。

近年ではプラスチックを分解するキノコやダイオキシンを無害にするキノコが発見されたとの報告もあります。キノコは決して時代遅れなものではなく、これからもその存在感を強めてゆく事が期待されている生き物なのです。



自然環境市民大学

2016年度(第14期)受講生募集

2016年4月～2017年3月
全38回(原則として水曜日)
室内講義と野外実習

北摂丘陵(五月山、妙見山)、淀川、
長松海岸(岬町)、奥の谷(富田林)、
奈良公園、甲山など。

受講料55,000円(分割可)

カリキュラム

開講式／自然とのふれあい／自然のしくみの理解(生態学)／自然・生き物を知る(分類・観察)／活動の体験・実習／修了式・記念講演会

詳しくは <http://www.nature.or.jp/> から「講座・講習会」へ

問合せ・申込み(公社)自然環境保全協会(TEL.06-6242-8720 E-mail:office@nature.or.jp)

**自然大学(第22期)
受講生募集**

2016年4月～2017年3月
全14回(室内講義7回、実習7回、基本は日曜日)

第1回(4月10日)は公開講座

室内講義は近畿中国森林管理局4階大会議室(JR大阪環状線桜ノ宮駅下車)
実習は、春日山、豊国崎、金剛山、馬ヶ瀬山、京大芦生研究林(1泊)、琵琶湖、昆陽池で、五感を働かせ、身体全体で自然を感じます。

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

受講料 35,000円(野外実習経費は別)
詳しくは http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/
問合せ・申込み:NPO法人 自然と緑(TEL.06-6978-5060 E-mail sizen_mi@osb.att.ne.jp)

**気候をまもる、パリへの行進
アースパレード2015**

東京・日比谷公園野外音楽堂
2015年11月28日(土)14時～
集会后、銀座周辺をパレード
京都・円山公園
2015年11月29日(日)13時～
集会后、京都市内をパレード
詳しくは climate-action-now.jp
主催/Climate Action Now! キャンペーン実行委員会(東京企画 TEL.03-3263-9210 tokyo@kikonet.org 京都企画 TEL.075-254-1011 kyoto@kikonet.org)

**おいしいポンカン
いかがですか**

今年もおいしいポンカンができました。お歳暮に、贈答にどうぞ。

★甲浦ポンカン(低農薬・動物性有機肥料のみ使用)

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

- A 2L/3L 5kg 30個前後 4,000円
- B 2L/3L 3kg 20〃 2,600円
- C L 5kg 35〃 3,500円
- 【普通箱入り】
- D 2L/3L 5kg 30〃 3,700円

E 2L/3L 3kg 20〃 2,300円
F L 5kg 35〃 3,200円
【家庭用】

G 5kg 33〃 2,600円
ゆず酢 4合瓶2本入り 4,000円

※出荷:12月10日～2月下旬

※送料別途。20kgまで関西650円、関東・甲信越860円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 田中農園 田中隆一さん (tel./fax. 0887-29-2500 e-mail:tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいていますので、ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。

編集後記

事務局の河本公子さんが10月下旬から産休に入ったため、これから数号を高見が編集します。人生の前半では編集を仕事にしていたこともありますが、なにせ20数年ぶりのことで、その間に編集・印刷の環境は一変しており、とまどうことばかり。忙しくしている東川事務局長にいちいち操作方法を尋ね、しかも同じことを繰り返し尋ねるしまつで、かえってジャマをしているのではないかと気がとがめます。みにくいところ、おかしいところがあることと思いますが、お許しください。

(高見邦雄)